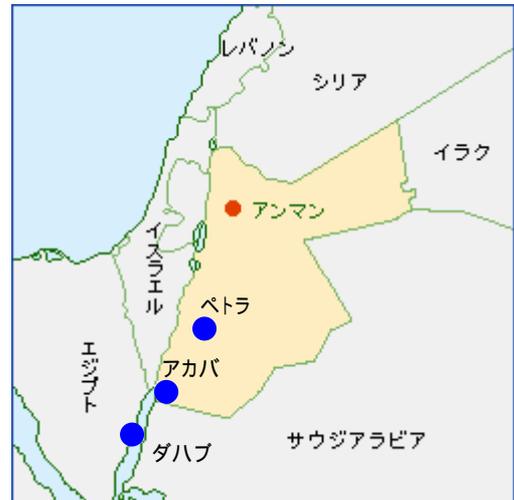


この放浪後半のメインイベントであるアドリア海自転車ツアー & アテネオリンピックが終わったら、日本に向けて東へ大移動を開始する予定だった。

トルコからシリアにはちょっと寄り道と思ったが、ヨルダンまで来てしまうと、やはり“ピラミッドを見て帰ろう”などと思い始め、アンマンから一路エジプトを目指すことにした。

何だか微妙に西へ進んでいる気がするけど、まあいいか(良く考えると、アテネからエジプトに飛んで、その後、北上すりゃー良かった気もする)。

ヨルダンからエジプトに行くには、1991年の湾岸戦争で一躍有名になったアカバという港からフェリーに乗ることになる(ヨルダンがわずかに持っている海岸である)。



ところがアンマンからアカバへ行く途中に、何やら【ペトラ】という、ヨルダン最大の遺跡があるらしい。

ロンリープラネットは、相変わらず『もしヨルダンで一ヶ所行くなら、間違いなくペトラだ』なんて書いてある。

地球の歩き方は、“ペトラに行かなきゃヨルダンに行ったとは言えない”と今回は書いておらず『阪神大震災の為、ヨルダンの旅程を短縮した日本の皇太子御夫妻もここだけは訪問した』と書いてある(でもこれって、皇室にとっては余計なコメントの様な気もする)。

【中東の3P】なる言葉がある。シリアのパルミラ、イランのペルセポリス、そしてこのヨルダンのペトラである。つまりかなり有名って事らしい。

このペトラ、以前は入場料が約3000円で、貧乏旅行者泣かせでも有名だった(いや貧乏じゃなくても結構痛い。先進国の旅行者ばかりとは限らないし)。

今は12ディナール(1860円)と少し下がったものの、まだまだ高い。

遺跡はとても広く、1日で見回るのは無理と言わんばかり、スキー場でもないのに2日券、3日券も売っていたりする。

そんな大上段に構えている場所は、いくら一国の名所でもちょっと敬遠したい。というか、私はもともと遺跡ってやつにはさほど興味がない。

さらにここまで有名だと、テレビの旅行番組やクイズ番組あたりでもさんざん流れているだろうから、まあこの遺跡、私はパスだな、ヨルダンには他に温泉もあるし・・・。

そう思ってアンマンのホテルのロビーでくつろいでいると、同じ宿の韓国女性(美人)がこれからペトラに移動すると言う。

彼女とはアンマンで一緒に買い物に行くほど仲良しなのである。

やっぱり中東の3Pだし、皇太子様も行ったことだし、テレビで流れるなら見ておいた方が楽し

いだろうし、もしかしたら遺跡好きになるかもしれないし、もしかしたら2日券を買った人が券をくれるかもしれないので、即座に同意し、急きょ私もペトラへ行く事になった。

ペトラの街へ

彼女が乗るバスに間に合うように、アンマンの街を必死で漕いだが、アンマンの街はアップダウンが厳しく、またバス停までは7-8キロもあったので、圧倒的に遅刻し、一時間後れのバスでペトラに向かうことに。本当にこの自転車には泣かされる…。

夕方に着いた街は、遺跡の為に存在しているような小さな街だった。

外国人相手の商売をしている人々が多いせいか、ヨルダンの普通の家庭よりも、幾分か裕福な家並みが続いている。

こういう街では、“ボル”ことを得意としているので注意が必要だ。

早速ビールの値段を調べると、3ディナール(465円)だった。日本より高いビールは世界でもなかなかない。アホらしくて飲む気が失せた。

聞くところによると、アンマンでは0.2ディナール(39円)だった水が、ペトラ遺跡内では、2ディナールになるらしい。同じ水で10倍はないぜよ…。この街では極力金を落とすのをやめよう、などと決意するのであった。

ホテルに着くと、“遺跡を見たい”という私の真摯な態度に打たれるように、この日2日券を買って遺跡を見てきたカンボジア系アメリカ人から券をもらえた。

彼は、この日のサンライズとサンセットをペトラ遺跡で見てきたのだそうだ。

確かにきれいだと評判なのだが、両方を1日で見ると奴も珍しい。朝ホテルを出て夜ホテルに戻るまで17時間もペトラを見て来て、『さすがに明日はもういい』と言いながら足にサロンパスを張っている。遠慮なくチケットを頂いた。

チケットには彼のサインが入っている。中国系カンボジア系アメリカ人だったから、漢字でサインをすればよかったな、と彼は言っていたが15分ほど練習して完全マスター。17時間遺跡を観光する彼も力が入っているが、私もなかなかやる。

ホテルで例の韓国人女性(超美人)に感動の再会(ってほどじゃあないけど)。

ペトラは「インディ・ジョーンズ最後の聖戦」の舞台なのよ、などと言う。

へえーそうなんだ。でも一度見た映画だし、明日は現物を見るわけだし、まあいいか。

しかし彼女はそう言いながら、一度も見た事がないらしい。『ここに来るなら、見ておくべきだったわ』と。

いい映画は何度もみたいし、最近ハリソンフォードを見ていないし、どんな撮影のされ方をしたのか見ておくべきだと即座に同意し、ホテルにお願いしてビデオを見せてもらうことに。どうやらこのペトラのホテルは、ほとんどがこの映画のビデオを用意してあるみたいだ。

延々とビデオを見ていたが、ペトラ遺跡が出てくるのは最後の15分だった。確かにそのシーン、だいぶ昔に見た事がある。あれってヨルダンの遺跡だったんだ。アメリカ映画ってすごいな、こんなところまで来て。

ペトラ遺跡

この遺跡、朝の6時に門が開く。でもそんなに早くは行きたくないの、適当な時間に行って、昨日もらったチケットをスタッフに見せる。

難なく通過。かなり練習したので、サインを書いて見せたかったが、そのチャンスはなかった。12ディナール(1860円)が浮いた。これだけのお金をカンボジア人に出してもらおう事は恐らく一生あるまい。

入場してしばらくは長い砂利道を歩く。

何だか中国人がいっぱいいる。

『どこから来たの?台湾?中国?』と英語で聞いてみるが、通じないみたいだ。中学校でやるだろう、このぐらいの会話。

でも、圧倒的なダサイ服装を身にまとっている。中国の“ど田舎”に違いない。特に若い女性がダサイ。去年行った北京では有り得ない様な格好である。もちろん台湾でも有り得ない。顔の感じからして、中国南部の方みたいだ。

だらだらおしゃべりをしながら横に広がって歩いていて厄介だ。

抜かしても抜かしてもまだ先にいる。さすが中国人。人だけは多い。何百人かのツアーのようである。その9割は女性。

しかし中国もこんなところまで観光に来るようになったかと思うと隔世の感がある。しかも多くはカメラを持っている。さすがにデジカメではない様だが。

あっ、若い女性が痰を吐いた。やはり中国人である。

【シーク】と呼ばれる深い谷間(60~100メートル)の細道が続き、20分ほど歩くと、パーンと視界が開け、宝物殿が現れる。本物の遺跡の方は、いきなりメインイベントがやってくるのだった。

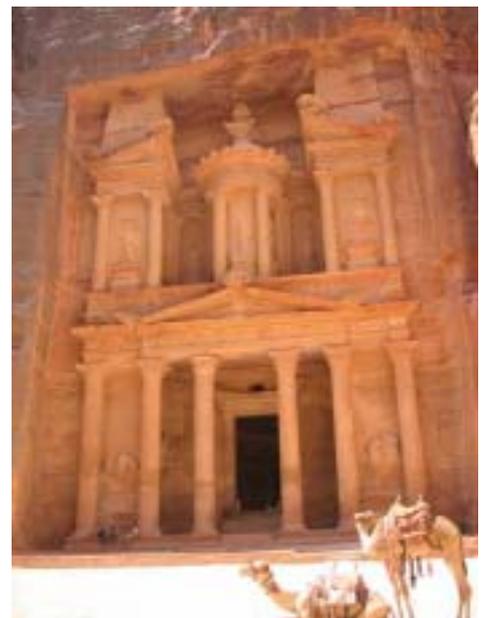
これが『インディージョーズ/最後の聖戦』の部隊となった【エル・ハズネ】である。昨日見たまんまだ。

崖の岩盤を掘りぬいた

もので、高さ43メートル、幅30メートルとでかい。紀元前1世紀~紀元後2世紀頃の物らし



スークと呼ばれる細い道の最後には、いきなりペトラのメインイベントが。



インディージョーズでも使われた宝物殿。高さ43メートルもある。

い。よくもこんなものを作ったもんだ。

ペトラは、広大な敷地に遺跡が点在している。ローマ劇場あり、柱廊あり、門あり、博物館あり、修道院あり。

ガイドブックが、『時間が許せば2、3日は充てたい』と書いている。

全く同感である。『例の韓国人女性と一緒に2、3日は充てたい』

しかし訳あって別々なので、有名どころを2、3時間ほどであっさり回ってみた。

途中で小一時間ほど崖を登る。ロバに乗れば楽なのだが、何となく自分の足で歩いてしまった。

因みにロバは午前中の客が少ないときには2ディナール(310円)程度で、午後客が多くなると5ディナール(775円)になるようだ。なかなか現金なヨルダン人である。

パルミラ遺跡(シリア)とこのペトラ遺跡(ヨルダン)、2対8ぐらいでペトラファンの方が多いいみたいだが、私は遺跡の素晴らしさだけ比較してもパルミラの方が何となく好きだ。

(温泉まで入れると、圧倒的にパルミラである)

このペトラ遺跡にどれだけ感動したか、は文才のない私にはなかなか説明できないし、まあ来てみないと何とも伝わらない部分があると思うが、“駄目なところ”は簡単に書けるものである。

素晴らしい部分はひとまず置いておいて、駄目な部分にフォーカスしてみたい。

遺跡以外の要素では、このペトラ、ずいぶんとひどいのである。

におい。

ロバがたくさんいるので、ロバ臭い。馬は馬くさい。ラクダはラクダ臭い(ってだいたい一緒だけど)。

これはまあしかたないけど、金を取って乗せているなら、通路のど真ん中のクソぐらいは、時々掃除して欲しいもんだ。

体にまとわりつく蠅。

こうも蠅がいるかなあと思うぐらい、大量にいる。

またこの蠅が動きがのろく、払いのけようとすると手に当たるのである。そのくせとてもしつこい。ラクダのクソはすぐ乾燥して蛆などわきそうもないけど、何でこんなにいるんだろう。実は死海に行くときにも蠅がたくさんいて恐怖だった。ヨルダン政府、何とかしてよ。

ギャアギャアうるさい観光客。

今日の中国人には参った。中国人はもともと大声で話す傾向にあるが、群れると容赦ない。

丘を上がっていくときに、グループがバラバラになるもんだから大声で連絡しあって、そしてそれがV字渓谷に反射されるので、せっかくの雰囲気は台無し。

目に余る中国人のモラル欠如。

容赦なくゴミを遺跡の路上に捨てる中国人。許し難い。

現場(1): ペットボトルを階段の上から捨てるので、転がる音が渓谷に響いている。彼らが休憩したところには、ビニールの袋をそのまま置いてくる。

私が目の前で目撃したので、そのペットボトルと袋を拾って、『これあんたたちのだろ、こんな所に捨てるなよ』としかってやったが、まず英語が通じない。態度で分かりそうなもんだが、『???』ってな顔をしている。

このダメダメ中国人に付いていって、ごみ箱のある所でこいつらのゴミを目の前で、こうやるんだよ、と捨ててみせた。でも『あぁ』ってな反応。

だめだこいつら。

現場(2): 中国人の若い女性が、ビニールを道に捨てる。ヨルダン人スタッフが目撃し、『ゴミを捨てたら行けません、持って帰りなさい』

と英語で注意。女性は、そのゴミを拾ったかと思うと、今度は道端の深い谷に投げ捨てる。

ヨルダン人啞然。私に向かって

『ねえ、ねえ今の見た? 今の見た?』

と信じられない様子。確かに。

だめだこいつら。



ペトラ遺跡を守っているヨルダン人スタッフ。なかなか衣装が似合っていて格好良い。

現場(3): 中国人をことごとく追い抜いて 30分ほど掛けて山を上がり、山頂で休憩している間に、たくさんの中国人が私に追いついてきた。うるさいので下山する。

しかし道々におびただしい量のペットボトルや中国製のレトルト缶、ビニールのゴミの数々。登って来る時には一切なかったのに、レトルト缶を見るとやはり中国製。住所は『江(なんとか)省』の三文字。

だめだこいつら。



中国人が通った後のペトラの道。レトルトの缶詰にペットボトル。平然と捨てていく神経が分からない。アジアの恥。

中国人のモラル欠如はひどい。はっきり言って、【アジアの恥】の輸出である。

今後中国が経済発展してしまっ、こんな人間が世界の観光地を徘徊するようになったらえらいことだ。

世界の美景を楽しむのはあと20年以内かなあ、何て思ってしまった。

若い女性があればじゃあ、生まれてくるその子供も知れているだろう。少なくとも、あと50年は変わらない中国人気質。どうしょうもない。

こんな訳で、味覚以外の4覚は、常にひどいことになっていたペトラ。遺跡がなければただの中国の汚い地方都市を歩いているようなもんだった。

韓国料理お食事会

例の韓国人女性(超美人 無修正いや無整形)が、夕食をご一緒に、と誘ってくれる。

中国人にはがっかりしたが、韓国人はますます好きになっている私。

彼女は特に聡明で、よく気が付く女性である。英語も上手いし、話し上手だ。

職業はトラベルライター。きっと私とのアバンチュールも題材になっているに違いない。

そんな彼女だが、1つ問題がある。

旦那がいるのである。またもや人妻である。しかも今回は旦那と一緒に旅をしている。単なるカップルの旅行である。

そうなのだ、私と一緒に買い物に行くときも、一緒に映画を見るときも、一緒にワインを飲むときも、片時も離れずに旦那がいるのである。

彼の職業はフリーライター。きっと私の横恋慕も題材になっているに違いない。

今夜の夕食ってのは、同じ宿の韓人数名も一緒なのであった。

以前、韓国人旅行者が最近はとて多くなった、と書いたが、ここヨルダンではさらに増えた。

沢木耕太郎という人の『深夜特急』という本がある。インドからイギリスまでバスで一人旅をするという旅行記で、だいぶ以前の話だが、この本に刺激を受けて旅をする日本の若者がたくさんいた。

昨年、韓国でも似たような旅行記が出版されて、その人が通った道筋をたどって旅をする韓国の若者が急増したそうだ。ヨルダンを含めたそのルート上では、日本人旅行者よりも韓国人旅行者の方が多かったりする。

そんな訳で、ここに泊まっている韓国人貧乏旅行者が多いのであった。

どの国の人間であっても、貧乏旅行者は時々、【シェア飯】をする。

毎回レストランで食べていたら高いし、自分達の国のものを時々食べたい。しかも安く上げたい、という場合、キッチンを使える宿に泊まって、みんなで金を出し合い自炊する。それをシェア飯という。

たいてい一人は料理上手な仕切り屋がいて、中心になって作ってくれることが多い。日本人旅行者の場合は、男性に仕切り屋が多い様だが、韓国人旅行者では女性が多い。

以前韓国人の女性旅行者が、『韓国では料理のできない女性は、あまり男に相手にされない』という様な事を嘆いていた。そんな背景があるせいか、料理上手な韓国人女性の旅人が実に多い。

この日も、たった二人で十数人分の料理をあっという間に作ってくれた。しかもこれまで見た事がないような豪華なシェ



韓国人女性二人が調理した「シェア飯」。彼女たち、コチュジャンまで持っていた。

ア飯。

日本人が醤油を持ち歩いている様に、韓国人はコチュジャンを持っていたりする。そして辛い料理も適度にあって、なかなか韓国人と一緒に旅をするのもいいもんだ。

この日の食事代は全部で7JD(1085円)だったそうだ。一人100円以下。しかし安く上げるなあ。

因みに、今の韓国の若者には、日本人嫌いはほとんどないみたいだ。もちろん学校で、日本のかつての悪行ってやつをかなり勉強するらしいので、本音の部分ではどうなのかまだよく分からないが、少なくともこの旅で接した全ての韓国人は、実に気持ちのいい連中で、そんな雰囲気は微塵もない。

エジプトへ

この韓国人達と、チケットをくれたカンボジア系アメリカ人のショーンと私は翌朝の小型バスをチャーターし、一路アカバに向かう。

ヨルダンのアカバ港からエジプトのヌエバ港へは、2種類のフェリーが出ている。スピードボートとスロースロート。1.5時間か4時間の違い。値段は36ドルか23ドル。

スピードフェリーの方は11時発で、スロースロートの方は20時発。まだ朝の10時だったので、私とショーンはスピードボートの方にした。韓国人達はスロースロートに。

スピードボートと言いながら、それは単に両者の比較の問題で、実際のスピードは全然たいしたことがないのだった(余談だが、これで36ドルというのは相当高い)。

しかもヨルダン側のイミグレとエジプト側のイミグレに時間をたっぷり要し、ヌエバ港を出れたのは15時だったので、高い金を払った割にあまり時間の節約にならなかったね、とショーンと話していたのだが、後から到着した韓国チームによると、スピードボートが出港したのは夜の10時半、ヌエバ港に到着したのは深夜2時半。港で少し寝て、翌朝に行動せざるを得なかったと言っていたので正しい選択だったのかもしれない。

紅海沿岸のリゾート

紅海はダイバーにとってはあこがれの場所、と言われるほど海がきれいなリゾート地が多い。

中でも3つ有名な場所がある。北から、

1. ターバー
2. ダハブ
3. シャルム・イッシュェーフ

何れもシナイ半島をイスラエルが占領していたときに作られたリゾート地である。

ターバーは、イスラエル国境にあるリゾートで、滞在しているのはイスラエル人ばかり(そして先日爆弾テロがあったところである)。

シャルム・イッシュェーフは、高級リゾート地で、金持ちしか行かない。

一方貧乏旅行者はダハブに集まるのだそうだ。

当然我々が目指すのも、もちろんダハブである。

ヌエバア港からタクシーに乗ってダハブを目指す。道路は海岸沿いではなくて、内陸の砂漠地帯を通る。ヨルダンにいたときより、気温は5~6度は上昇し、空気はとても乾いている。雨はほとんど降らないらしく、全くの不毛の地となっている。

1 時間ほど砂漠に通したアスファルトの道を通ると、目指すダハブの街が忽然と現れる。

ダイバーにとっては超有名なダハブだから、もっとリゾートチックなのかと思った。

街と書いたが、これじゃあ海沿いのちょっとした村に過ぎない。

全然緑はないし、高い建物や立派なホテルはほとんどない。リゾートのイメージがだいぶ狂う。



砂漠に通したアスファルトの道路。電気と水と道路を作って新しい街作りをしている。

それでもやはりリゾートなのであった。しかも相当に素敵なリゾートだった。

ドボンと海に飛び込むと、魚がいっぱい群れている。海岸沿いなのに、まだ珊瑚が死んでいない。

海岸沿には、レストランが並んでいる。ここではエジプト料理はもちろんの事、イタリアンや中華も食べられる。魚はフレッシュで美味しい(焼き魚に醤油で食べると実に美味しい)。

ビールやワインも簡単に手に入る。



ダハブの海岸。砂浜ではなくジャリ。海岸にはパラソルとソファを用意したレストランが並ぶ。

圧巻なのは、エジプトの物価の安さ。

泊まった宿はドミトリーの部屋で、何と5エジプトポンド(約90円)。

世界でも1ドルを切る宿と言うのは珍しい。

エジプトって、ピラミッドだけじゃなかったんだ。

つづく